

シムルノミナラズ尚一段遠キニモ連子及ボスヲ得ベキナリ
 諸谷内ニ暫々タル小臺ノ為ニ更ニ灌漑ノ潤沢ヲ擴充セント
 欲セハ宜シク水源ノ山邊ニ堰埭ヲ設ケ之ニ雨水ヲ留ムベシ
 其影響ハ左方水源ノ山林ニ及ビ草木ノ繁茂ヲ助クベシ
 第十村堰埭ノ為ニ流尾洲嶼ニ及ブ溉灌ノ澤ハ現今如何ヲ景
 況ナルカ後条別ニ説ク所アリ

山地ノ景況

夫レ劍山ノ周圍ニ積弊スル所ノ阿波國諸山ニ呈スル草木化
 生其他ノ概況ニ至テハ切！畑ノ害アルカ為ニ其富美ノ將ニ
 頤カントスルノ勢ハアレ共未タ以テ貧蕪ト謂フ可ラズ。遙
 ニ溪水ヲ疏シテ吉野川ニ送ル所ノ土塚阿國ノ諸山ニ於ケル
 モ亦草木繁生至テ美ナリ
 狩リ池田嶽養ノ町ニ屢立シテ阿讃ノ境界タル諸山ノミ其状
 態甚タ蕪悪ヲ極ム斜坡南面此川ノ左側ニ在リ。該山諸洞ノ
 景況ハ附録第一ニ説明シ畧ホ之ヲ尽セリ復タ此所ニ蝶々セ
 ズ。都テ此山ヨリ砂砾ヲ流ス下流多ク本川下流ニ呈スル
 幾多ノ困難皆是ニ起因ス。民為ノ致ス所既ニ已ニ斯ノ惡果

貧蕪ニ土地が荒れ種草が茂っている

蕪悪ニ土地が荒れていること

斜坡ノ坂
 味々々!!よみなくしやべる

段と遠い所まで引くことができる。

諸渓谷内の層になった小さな台地に灌漑しようとするならば、水
 源の山地に堰埭を設けてこれに雨水をためるべきである。その影響
 は左方(北岸)水源の山林に及び草木の繁茂を助けることができる。

第十堰のために、下流の洲嶼に及ぼす灌漑の恩恵は今いかなる状
 況であるかは後に説く。

山地の景況

劍山の周辺に集中する阿波の諸山に見える草木の成育などの概況
 は、切畑の害があるためその優美さは損なわれようとしているが、
 いまだ荒地というほどではない。

はるかに渓谷の水を吉野川に送っている土佐・伊予の両国の諸山
 においても草木繁茂し極めて美しい。

ただ池田・撫養の間に屏風のようにそびえ、阿波・讃岐の境界を
 なしている諸山(阿讃山地)だけはその状況は甚だ悪く、荒廃地で
 ある。讃岐山脈の南側は、この川(吉野川)の左側にあり、この山
 地の谷の状況は付録第一に概略を説明しているので、ここでは多く
 を語らない。すべてこの山より流れる砂礫は大変多く、本川(吉野

ノ滅シ難キニ及ベリ
吉野川流域ニ森羅崖窟スル高山ノ中絶ヘテ花崗石ヲ見サル
ハ殊ニ奇トスル所ナリ

切畑ノ事

流域内ノ森林ハ其大小ヲ向ハテ現今存スルモノ已ニ稀ナリ
水源ノ最上地ニ位シ化壁景登ナリトスルノ地及ヒ劔山近傍
ノ衆山ト云ヒ亦稀ニ之ヲ存ス。樹木原ト美ナルモ逐次斜坡
ヲ開拓シ耕地ヲ得ンガ為ニ厚林兵跡ヲ滅スルノ地ハ往々之
アリ

吉野川沿岸ノ平地ヲ取テ之ヲ流域ニ比スレハ其配格甚ク小
ナリ而シテ鮎喰川ヲ除クノ外ハ支川中一モ見ルヘキノ平地
ヲ有スルモノナシ故ニ平地面積ノ狭小ナルコトハ復々岨岨
セル四圍全部ニ普通状トスルカ如ク茲ニ其レ然ルヲ以テ月
ニ曰ニ繁殖セル人口ニ供シテハ其不足ナキヲ得サルナリ。
此ヲ以テ山腹ヲ開キ耕地ニ化スルハ是レ至然ノ勢ニシテ又
タ止ヲ得サルニ出ツ。藎々林木ヲ生スルノ地ハ之ニ他ノ耕
植ヲ施スモ甚佳ナルカ故ニ茂林ヲ向キ已ニ其他ニ田業ヲ營

川) 下流に与えている多くの障害は、皆ここに起因している。人び
とがしてきた行為はすでにいやし難い結果になっている。

吉野川流域にそそり立つ高山の中に、花崗岩が全く見当らないの
は大変不思議なことである。

切畑のこと

〔吉野川〕流域内の森林は、大小を問わず現に存在するものは稀
である。水源の最上部に位置し植物の最も良く育つ地と劔山近傍の
山でも稀にしか森林を残していない。樹木の美しい樹林におおわれ
た山も斜面を耕地とするためにつきつきと開拓し、豊かな森を減ら
している所もあちこちに見られる。

吉野川沿岸の平地を流域に比べてみるとその面積の比は極めて小
さい。鮎喰川以外には支流のうちでは一つとして平地といわれるべ
きものはない。平地面積が狭いということは、険しい山地の四圍全
体を通じて言えることである。このため年を追って増加する人口を
養っていくのに不足している。このため山腹を開いて耕地にしてい
くのは当然のこと、やむを得ないことである。樹木の繁茂する土
地は他の植物を植えるにも適地であるために林地を開いて田地とす